

# 健康危機事象の発生に備えて訓練を実施！

当研究所では、昨年12月18～19日に健康危機に関わる緊急事象の発生時に、原因究明のための検査が迅速に実施できるようにするため、全職員が参加して「健康危機管理訓練」を行いました。

## 健康危機管理訓練の概要

府内で大規模な食中毒様事件が発生した事態を想定して、当研究所「健康危機管理要領」に基づき所内に健康危機管理委員会を設置し、情報収集班及び4つの検査班を設け、緊急検査を実施しました。

検査試料としては模擬直腸拭い液及び模擬吐物に黄色ブドウ球菌エンテロトキシン（毒素）、EPN（有機りん系農薬）及びヒ素を添加して20検体を作成しましたが、添加した物質の種類と濃度は伏せて訓練を行いました。

その模擬検体について、放射線測定、細菌検査、シアン等の簡易キット検査、農薬等の有機化学物質検査、重金属等の無機化学物質検査、延べ約900項目の検査を行って原因物質の究明にあたりました。

また、情報収集班では被害発生状況や検査の進捗状況等の情報を収集・整理し、迅速な情報の共有化に努めました。

## 成果と今後の課題

- 1 地方研究所としては全国でほぼ初めての検査実務を伴う訓練を実施し、職員の健康危機発生時の検査対応への意識が大きく高まりました。
- 2 原因物質を伏せた訓練でしたが、物質究明の検査がほぼ想定どおり実施でき、検査マニュアルや検査技術等の妥当性が実証されました。
- 3 検査班とは別に独立した情報収集班を設置することは、危機発生時に極めて有効であることが確認されました。

一方で、今回の訓練では情報収集に課題も残しました。検査結果や被害発生状況、化学物質等の健康リスクといった種々の情報を、より迅速に収集・整理し共有できるようにするためのシステム作りが必要であることが明らかになりました。

今後は保健所等関係機関を含めた総合的な訓練に取り組んでいきたいと考えています。

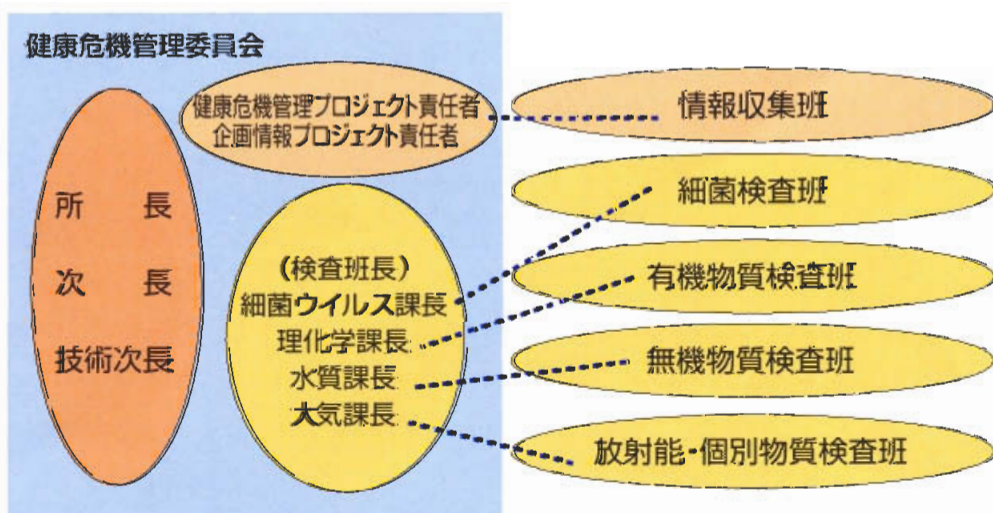


図1 京都府保健環境研究所の健康危機管理体制

## 訓練実施の様子



安全実験室内で検査試料の分取



食中毒菌・毒素の検査



当研究所健康危機管理委員会



高速液体クロマトグラフによる農薬の分析



蛍光X線分析による重金属等の分析

## 『海外技術研修』

アフリカのジンバブエ共和国・グエル市環境行政担当職員のトーマス・マシャンドゥゼさんが、平成15年11月10日～28日、平成16年2月14日～24日の5週間、当研究所で「排水処理技術」や「環境分析技術」について研修を受講されました。



分析研修中のトーマス・マシャンドゥゼさん

## 『京都府保健福祉環境等調査研究発表会・特別展示』

平成16年1月15日に京都府立総合社会福祉会館「ハートピア京都」で、府、市町村等の保健福祉・環境衛生担当者を対象とした調査研究発表会が開催され、「SARS」をテーマに国立感染症研究所感染症情報センター砂川富正主任研究官の特別講演とパネルディスカッションや研究発表が行われました。

さらに「保健福祉環境行政分野における情報化を考える2004」をテーマに、特別展示会も併せて行われ、当研究所が企画運営に携わりました。

(<http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/news/040115happyou/happyou15.htm>)



特別展示会の様子



遺伝子増幅法の研修の様子

## 平成15年度「保健所試験検査担当職員専門技術研修」

平成16年2月18日から20日の3日間、当研究所で府内の保健所の試験検査業務に携わる担当職員24名を対象に専門技術研修を行いました。

保健所の従来の試験検査機能を強化させた拠点保健所が、5月に府内北部、中部、南部に設置されるのに向けて、腸管出血性大腸菌0157の毒素遺伝子増幅検査法(PCR法)等について研修を行いました。